

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
II-1-(4)-④ 総合的な災害 対策の推進	1	⑬	① 海岸（高潮） 事業	整備課	災害に強い都市 づくりの一環として、 高潮等の災害から市民 の生命や財産を守るため に、臨海部において護 岸整備を行う。	新門司北地区北護 岸整備による後背 地防護面積	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	防護面 積 74ha (R6年 度)	継続	30,000	26,000	減額	5,650	順調	本市の高潮対策の重要性を 継続して国に伝え、予算の確 保に努めている。 高潮災害の予防対策とし て、引き続き護岸整備を進 め、早期完成を目指す。	順調	新門司北地区は、過去に高 潮の被害を受けている地区で ある。市民や立地企業の安全 ・安心を確保するためにも、 本市の高潮対策の重要性 を継続して国に伝え、予算を 確保し、早期完成を目指す。
	2	⑪	① 海岸メンテナ ンス事業	港営課	老朽化が進む北 九州港の海岸保全 施設について、地 域の安全・安心を 守るため計画的に 維持管理を行い、 施設の機能維持を 図る。	海岸保全施設の機 能維持	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	施設背 後地の 安全性 確保	継続	34,000	30,000	減額	5,650	—	点検結果を踏まえ、早急に 対応が必要な施設から補修・ 改修を進める。		
II-1-(4)-⑤ 公共施設など の耐震化の推 進	3	⑨ ⑪ ⑬	① 国直轄事業負 担金（耐震強 化岸壁整備）	計画課	大規模震災時 にも物資等の海上輸 送機能を確保する ため、耐震強化岸 壁を整備する。	臨海部防災拠点を 構成する耐震強化 岸壁の整備（西海 岸地区）	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	耐震強 化 岸壁の 整備 (R7年 度)	継続	325,000	0	減額	2,900	順調	事業主体である国は令和3 年度に工事着手して以降も毎 年予算要求しているものの、 令和5年度当初については予 算の配分がなかった。 市としては国に対して、補 正予算を積極的に活用した予 算確保など、事業の早期完了 を要望するとともに、国との 連携を密にし、事業の進捗を 図っていく。	順調	本市では耐震強化岸壁を5 箇所整備する計画である。現 在、砂津地区、新門司地区の 整備が完了している。残る3 箇所のうち、西海岸地区、ひ びきコンテナターミナルにお いては、国が事業主体になる ことから、早期完了、早期着 手の要望を引き続き行い、国 との連携を密にし、事業の進 捗を図る。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標			
IV-4-(3)-②にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充	7	⑧	港のにぎわい推進	クルーズ・交流課	市民に港や海に親んでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、北九州港内で各種イベントを実施する。	イベント参加者の満足度	80%以上 (H26年度)	目標 90 % 以上	実績 97 %	達成率 107.8 %	90 % 以上	90 % 以上	90 % 以上	イベント参加者の満足度 90%	継続	28,449	29,013	維持	22,350	順調	「みなと」を核としたにぎわいづくりや地域づくりにより、市民が「みなとまち」を再認識し、シビックプライドの醸成につながる取組を行う。また、市制60周年記念事業として、帆船等を利用したイベントを実施し、本市船旅文化の構築、海や港の仕事への理解促進、興味喚起に繋げる。	順調	関門海峡花火大会実行委員会や、みなとオアシス門司港などの地元関係団体と連携して、みなとや海辺のにぎわいづくりを進める。また、SNS等のネットワークを活用し北九州港の周知・PRを行う。
V-1-(3)-②産業拠点の整備	8	⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	物流振興課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計)	4件 (H26年度)	目標 42 件	実績 47 件	達成率 111.9 %	43 件	49 件	1件増 (毎年度)	継続	431,721	4,837,941	増額	28,450	順調	外部環境に成果が左右されるが、本市の港湾を左利用する企業に絞り込んだ効率のよい企業立地活動を行う。また、マリナクロス新門司については企業の誘致が順調であり、旺盛な土地需要に応える為に整備が急がれる。響灘地区については、企業の土地需要に応えるため、未利用の国有地の有効活用を進める。	順調	効果的な企業立地活動を継続すると共に、残りの分譲地が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。	
V-1-(3)-③物流拠点の整備	9	⑧ ⑨ ⑩	北九州空港物流拠点化推進事業	空港企画課	北九州空港の将来ビジョンの柱の一つとして、九州・東九州・西中国3方向からの高速道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流拠点空港を目指す。また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより貨物増を図り、貨物増がこれら取組を加速させる好循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。	航空貨物取扱量	—	目標 30,000 †	実績 21,819 †	達成率 72.7 %	30,000 †	30,000 †	30,000 †	42,000† (R6年度)	継続	441,900	690,367	増額	40,400	順調	北九州空港の貨物事業が大きく進展した一方で新たな課題として、空港内での通関体制構築やエプロン・スポットの拡充、貨物上屋の整備なども顕在化しているため、今後、国を始めとする関係機関と連携して取り組んでいく。令和5年度においては、課題の解決とともに、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広域的な集貨や更なる需要の掘り起こしに取り組む、物流拠点化を積極的に進める。	順調	航空貨物については、北九州空港の貨物事業が大きく進展した一方で新たな課題として、空港内での通関体制構築やエプロン・スポットの拡充、貨物上屋の整備なども顕在化しているため、今後、国を始めとする関係機関と連携して取り組んでいく。令和5年度においては、課題の解決とともに、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広域的な集貨や更なる需要の掘り起こしに取り組む、物流拠点化を積極的に進める。港湾施設の整備については、老朽化した港湾施設の安全性確保を図るほか、引き続き、物流拠点化の進展を図るため、選択と集中を進めつつ、港湾機能の維持・強化を行う。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
10	④ ①		港湾施設整備 事業（岸壁、 物揚場、道 路、橋梁等整 備）	整備 課 港管 課	岸壁や道路等の 老朽化した港湾施 設について、適切 な改良を加え、機 能の維持・強化を 行うことにより、 施設利用者の安全 性確保及び利便性 向上を図る。	港湾施設利用者の 安全性確保及び利 便性向上	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施 設利用 者の安 全性確 保及び 利便性 向上	継続	340,270	869,670	増額	5,150	やや 遅れ	老朽化した施設の改良を経 済的かつ効率的に図るため、 緊急性の高い施設から優先順 位をつけて予算要求し整備し ていく。		北九州港港湾計画について は、令和5年度での改訂を目 指し、改訂計画の案を策定 し、国や関係者と協議を行 う。
							実績	—												
							達成率	—												
11	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮		北九州港港湾 計画改訂事業	計画 課	港湾を取り巻く 社会経済情勢の変 化に対応するた め、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる発 展を目指す。	港湾計画の改訂	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾計画の 改訂	令和5年 度での 港湾計 画改訂	継続	110,000	25,600	減額	48,000	順調	令和5年度での港湾計画改 訂を目指し、改訂計画の案を 策定し、国や関係者と協議を 行う。		
							実績	—												
							達成率	—												
12	⑨ ①		競争力のある 港づくり関連 事業（維持管 理等）	港管 課 整備 課	老朽化が進む北 九州港の港湾施 設について、維持 管理を効果的かつ 効率的に行うこ とで、物流基盤の 機能を維持し、北 九州港の競争力確 保を図る。	港湾施設の安全性 確保及び利便性の 維持・向上	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施 設の安 全性確 保及び 利便性 の維 持・向 上	継続	430,429	515,580	増額	115,075	順調	老朽化した港湾施設につい て、点検結果、利用状況を踏 まえて、緊急度の高い施設か ら補修を行うことにより、港 湾施設の安全性確保を図る。		
							実績	—												
							達成率	—												
V-1- (4)-② 再生可 能エネ ルギー ・基幹 エネ ルギー の創出 拠点の 形成	13	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力 発電拠点化推 進事業	エネ ルギ ー産 業拠 点化 推進 課	港湾空港局で は、響灘地区のポ テンシャルを活か し、平成23年度 より風力発電関連 産業の集積を図 る『グリーンエネ ルギーポートひび き』事業を進めて おり、本事業の更 なる推進にあっ ては、今後拡大が 見込まれる洋上風 力発電に対応した 環境整備が急務で ある。 そこで、響灘洋 上ウインドファ ームの形成をイン センティブに関連 産業の集積を進め 、国内における“ 風力発電関連産業 の総合拠点”の形 成を目指す。	響灘地区総合拠点 の産業用地利用率	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R6年 度)	継続	1,758,900	1,722,450	維持	129,500	順調	響灘洋上ウインドファーム 事業については、着実に事業 が進むよう、引き続き、事業 者等との連絡、調整、協議を 行う。 また、国と市が行っている 基地港湾の整備については、 響灘洋上ウインドファーム事 業に間に合うよう、確実に工 事を進めていく。 さらに令和5年度において も、国内の洋上風力事業の普 及拡大に合わせて、基地港湾 を継続して利用してもらえ るよう西日本地域の洋上ウイ ンドファームの市場開拓を継続 するとともに、産業拠点化に 向け、企業誘致や地元企業の サプライチェーンへの参入支 援などに取り組む。	順調	風力発電関連産業の総合拠 点形成に向けては、まず、響 灘洋上ウインドファーム事業 と基地港湾整備を着実に進 め、西日本地域のウインド ファーム事業を確実に取り込 むことで、基地港湾の将来に 向けた継続的な利用、関連産 業の定着を図る必要がある。 また、産業拠点化を進める ことで、更なる港湾の活性化 や雇用促進を図ることができ るため、積極的に取り組んで いく。
							実績	31.7 %												
							達成率	—												
						響灘地区総合拠点 利用ファーム数 (予定含む)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	1 案件	5案件 (R6年 度)	実績	1 案件							
							達成率	—												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
	14	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭	カーボン ニュートラル ポート推進事 業	計画 課	北九州港におい て、温室効果ガス の排出を全体とし てゼロにする 「カーボンニュ ートラルポート (CNP)」を形成す るため、港湾脱炭 素化推進計画の策 定・更新を行うと ともにCNP形成に 向けた各取組の具 体的検討を行う。	令和5年度中の港 湾脱炭素化推進計 画の策定	—	目標										本市が掲げる「ゼロカー ボンシティ」を達成するた めには、輸出入貨物の99.6%が経 由する国際サプライチェーン の拠点であり、CO2排出量の 約6割を占める臨海部産業の 拠点でもある、港湾における 脱炭素化に向けた取組が重要 である。本事業では、港湾脱 炭素化推進計画の策定・更新 を行うとともに、北九州港の CNP形成に向けた具体的な取 組の調査、検討等を行う。		
V-2- (1)-① 北九州 空港の 機能拡 充	15	⑧ ⑨ ⑩	北九州空港物 流拠点化推進 事業	空港 企画 課	北九州空港の将 来ビジョンの柱の 一つとして、九 州・東九州・西中 国3方向からの高 速道路の結節点に ある優位性を生か し、広域的な物流 拠点空港を目指す。 また、路線誘 致、集貨、創貨、 機能強化の取組を 推進することによ り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加速させる好 循環を構築するこ とで、物流拠点化 の実現化を図る。	航空貨物取扱量	—	目標	30,000 †	30,000 †	30,000 †							北九州空港の貨物事業が大 きく進展した一方で新たな課 題として、空港内での通関体 制構築やエプロン・スポット の拡充、貨物上屋の整備など も顕在化しているため、今 後、国を始めとする関係機 関と連携して取り組んでい く。 令和5年度においては、課 題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、こ れまで以上に広域的な集貨 や更なる需要の掘り起こし に取り組む、物流拠点化を 積極的に進める。 港湾施設の整備について は、老朽化した港湾施設の 安全性確保を図るほか、引 き続き、物流拠点化の進展 を図るため、選択と集中を 進めつつ、港湾機能の維持 ・強化を行う。	やや 遅れ	航空貨物については、北九 州空港の貨物事業が大きく 進展した一方で新たな課題 として、空港内での通関体 制構築やエプロン・スポット の拡充、貨物上屋の整備な ども顕在化しているため、 今後、国を始めとする関係 機関と連携して取り組んで いく。 令和5年度においては、課 題の解決とともに、国際貨 物定期便の安定化のため、 これまで以上に広域的な集 貨や更なる需要の掘り起こ しに取り組む、物流拠点化 を積極的に進める。
	16	⑧ ⑩	北九州空港新 規路線就航促 進事業	空港 企画 課	北九州市民の利 便性向上のため、 国内・国際定期便 の新規就航及び既 存路線の定着を図 ることを目標に、 路線誘致・利用促 進活動を行う。	国際定期路線の維 持・拡大	—	目標	3 路線	3 路線	3 路線							新型コロナウイルス感染症 の影響により運休となっ ている路線の就航再開に 向けて、定期便化に繋がる チャーター便の運航を積 極的に誘致するとともに、 航空会社に対する運航経費 の助成や、ターゲットを 明確にした広報など効果 的な集客を行う。		
					国内定期路線の維 持・拡大	—	目標	3 路線	2 路線	2 路線										
							実績		0 路線											
							達成率		72.7 %											
							目標		3 路線	2 路線	2 路線									
							実績		2 路線											
							達成率		66.7 %											
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													
							実績													
							達成率													
							目標													

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
	17	⑩	北九州空港 アクセス推進 事業	空港 企画 課	北九州空港の利 用促進のため、エ アポートバスの安 定的な運行確保 等、空港アクセス 利便性の維持・向 上を図る。	北九州空港利用者 数の増	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	200万人 (R6年 度)	継続	244,400	267,800	増額	22,040	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の影響により一部の航空便が 運休となっているが、航空便 の回復基調を想定し、それに 合わせてエアポートバスを運 行する。	
V-2- (1)-② 港湾の 国際競 争力の 強化	18	⑧ ⑨ ⑩	北九州港集貨 航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動き や物流事業につ いて、企業訪問な どにより情報収集 を行うとともに、 セミナーの開催 や様々な媒体を 利用してのPR及 び官民一体とな ったポートセー ルス活動など通 じて、北九州港 への集貨・航路 誘致を行う。	北九州港海上出入 貨物取扱量	9,998万 + (H23年)	目標 前年 (8,845万+) 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万+ (R6年)	継続	123,088	107,505	減額	50,500	順調	引き続き官民一体となって 船会社や物流事業者、荷主企 業等に対してPRを行い、新規 航路誘致や集貨・創貨を推進 するとともに、他港との競争 において魅力ある仕組みをつ くること、更なる北九州港 の利用促進を図る。 また、北九州港とアジア地 域や国内他港とを結ぶ国際・ 国内RORO航路の誘致による更 なる物流拠点化を推進する。 そのほか、荷役作業の安全 性確保と効率化を図るため、 引き続きコンテナヤード等の 整備を実施するほか、老朽化 の著しいコンテナクレーンの 更新を行う。 加えて、北九州港港湾計画 については、令和5年度での 改訂を目指し、改訂計画の案 を策定し、国や関係者と協議 を行う。	順調
	19	⑧ ⑨ ⑩	北九州港RORO 航路誘致事業	物流 振興 課	完成自動車の輸 出や自動車部品 輸入等のシーム レス物流に必要な 国際RORO航路を 誘致するととも に、更なる内航 RORO航路の充 実を図ること により、臨海部 における自動車 関連産業等の物 流拠点化の促進 及び北九州港の 取扱量拡大を 図る。	RORO航路数	4航路 (R1年)	目標 7 航 路	7 航 路	7 航 路	8航路 (R6年)	継続	11,309	10,853	維持	7,550	順調	自動車流通拠点形成など北 九州港の更なる物流拠点化を 図るため、北九州港とアジア 地域や国内他港とを結ぶ新た な国際・国内RORO航路の誘 致を推進する。	
	20	⑨ ⑩	太刀浦埠頭用 地整備事業	港管 課	太刀浦コンテナ ターミナル内の 舗装の損傷が著 しい箇所について 補修を行うこと で、荷役作業の 安全性確保と効 率化を図る。	荷役作業の安全性 確保と効率化	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	コンテナ ヤードの整 備	コンテ ナヤード等 の整備 (R5年 度)	継続	123,000	105,000	減額	3,650	順調	荷役作業の安全確保と効率 化を図り、本港の競争力につ なげるため、コンテナヤード 等の整備を行う。 令和5年度は引き続き舗装 の損傷が著しく、利用者から 整備要望の高い第2コンテナ ターミナルの整備を行う。	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
	21	⑧ ⑨ ⑬	太刀浦第2コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業	港管課	耐用年数を超え、老朽化、劣化が顕著なため、安全、安定した設備を提供することを目的とし、コンテナクレーンの更新を行う。また利用促進を図るため、クレーンの大型化も行うもの。	クレーンの更新基数	0基	目標 1基目着手	1基目竣工	2基目着手	2基目完成(R7年度)	継続	819,000	154,700	減額	12,300	順調	太刀浦第2コンテナターミナルは、昭和62年に供用開始し、更新対象のクレーンも設置から耐用年数を大幅に超え、老朽化が著しい。このため、安全かつ安定した設備を提供することを目的とし、クレーン3基の更新を行う。さらに近年のコンテナ船大型化を踏まえ、コンテナターミナルの利用促進を図るため、クレーンの大型化も行うもの。令和5年度からの2基目の更新において、これまでクレーン1基あたり2箇年工事として計画していたが、材料や部品調達が困難になっておりクレーンの納期が長期化するため3箇年工事となることから計画の見直しを行った。	
	22	⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	北九州港港湾計画改訂事業	計画課	港湾を取り巻く社会経済情勢の変化に対応するため、「港湾計画」の改訂を行い、北九州港の更なる発展を目指す。	港湾計画の改訂	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾計画の改訂	令和5年度での港湾計画改訂	継続	110,000	25,600	減額	48,000	順調	令和5年度での港湾計画改訂を目指し、改訂計画の案を策定し、国や関係者と協議を行う。	
V-2-(1)-③ 環境配慮型物流の推進	23	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万+ (H23年)	目標 前年 (8,845万+) 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900万+ (R6年)	継続	123,088	107,505	減額	50,500	順調	官民一体となったポートセールス活動等を通じて、航路誘致や集貨・創貨の推進による北九州港の利用促進を継続するとともに、モーダルシフトを推進する。	引き続き官民一体となって船会社や物流事業者、荷主企業等に対してPRを行い、新規航路誘致や集貨・創貨を推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みをつくることで、更なる北九州港の利用促進を図る。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標			
V-3-(2)-① 都市基盤・施設の有効活用	24	⑧ ⑩	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大	目標	3	路線	3	路線	3	路線	3路線 (R6年度)	継続	24,830	238,391	増額	28,130	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、定期便化に繋がるチャーター便の運航を積極的に誘致するとともに、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。	やや遅れ	空港については、新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、定期便化に繋がるチャーター便の運航を積極的に誘致するとともに、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 海上貨物については、引き続き官民一体となって船会社や物流事業者、荷主企業等に対してPRを行い、新規航路誘致や集貨・創貨を推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
							実績	0	路線				達成率										
V-3-(2)-① 都市基盤・施設の有効活用	25	⑧ ⑨ ⑩	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	目標	前年 (8,845万+) 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万+ (R6年)	継続	123,088	107,505	減額	50,500	順調	官民一体となったポートセールス活動等を通じて、航路誘致や集貨・創貨の推進による北九州港の利用促進を継続するとともに、モーダルシフトを推進する。	やや遅れ	官民一体となったポートセールス活動等を通じて、航路誘致や集貨・創貨を推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。			
							実績	9,998万+ (H23年)	9,636 万+													達成率	108.9
VI-2-(2)-① 市民・企業などによるCO2削減	26	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬ ⑭	カーボンニュートラルポート推進事業	計画課	北九州港において、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラルポート(CNP)」を形成するため、港湾脱炭素化推進計画の策定・更新を行うとともにCNP形成に向けた各取組の具体的な検討を行う。	令和5年度中の港湾脱炭素化推進計画の策定	目標			港湾脱炭素化推進計画の策定	令和5年度中の港湾脱炭素化推進計画の策定	—	—	18,600	—	20,950	—	—	本市が掲げる「ゼロカーボンシティ」を達成するためには、輸出入貨物の99.6%が経由する国際サプライチェーンの拠点であり、CO2排出量の約6割を占める臨海部産業の拠点でもある。本事業では、港湾脱炭素化に向けた取組が重要である。本事業では、港湾脱炭素化推進計画の策定・更新を行うとともに、北九州港のCNP形成に向けた具体的な取組の調査、検討等を行う。	本市が掲げる「ゼロカーボンシティ」を達成するためには、輸出入貨物の99.6%が経由する国際サプライチェーンの拠点であり、CO2排出量の約6割を占める臨海部産業の拠点でもある。港湾脱炭素化に向けた取組が重要である。本事業では、港湾脱炭素化推進計画の策定・更新を行うとともに、北九州港のCNP形成に向けた具体的な取組の調査、検討等を行う。			

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
VI-3-(1)-② 適正な 廃棄物 の処理	27	⑨ ⑩ ⑫	響灘東地区処 分場整備事業	整備 課	北九州港内の航 路・泊地の整備及 び維持から発生す る浚渫土砂、市民 生活や市内中小企 業の産業活動から 発生する廃棄物等 を最終的に処分す る海面処分場（響 灘東地区処分場） を整備する。	廃棄物処分場の確保	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	廃棄物 の受入 開始 (R5年 度)	継続	1,361,000	2,101,000	増額	39,500	順調	引き続き目標年次までの完 成を目指し、計画的な事業の 進捗を図る。	順調	市民生活に不可欠な廃棄物 処分場の整備事業であり、確 実に事業を進めていく。
						土砂処分場の確保	—	実績 —	—	—										
VII-2-(2)-① 充実した物流 基盤を 活用した物流 振興	28	⑧ ⑨ ⑩	北九州空港物 流拠点化推進 事業	空港 企画 課	北九州空港の将 来ビジョンの柱の 一つとして、九州 ・東九州・西中 国3方向からの高 速道路の結節点に ある優位性を生か し、広域的な物流 拠点空港を目指す 。 また、路線誘 致、集貨、創貨、 機能強化の取組を 推進することによ り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加速させる好 循環を構築するこ とで、物流拠点化 の実現化を図る。	航空貨物取扱量	—	目標 30,000 †	30,000 †	30,000 †	42,000† (R6年 度)	継続	441,900	690,367	増額	40,400	順調	北九州空港の貨物事業が大 きく進展した一方で新たな課 題として、空港内での通関体 制構築やエプロン・スポット の拡充、貨物上屋の整備など も顕在化しているため、今 後、国を始めとする関係機関 と連携して取り組んでいく。 令和5年度においては、課 題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ まで以上に広域的な集貨や更 なる需要の掘り起こしに取り 組み、物流拠点化を積極的に 進める。	順調	航空貨物については、北九 州空港の貨物事業が大きく進 展した一方で新たな課題とし て、空港内での通関体制構築 やエプロン・スポットの拡 充、貨物上屋の整備なども顕 在化しているため、今後、国 を始めとする関係機関と連携 して取り組んでいく。 令和5年度においては、課 題の解決とともに、国際貨物 定期便の安定化のため、これ まで以上に広域的な集貨や更 なる需要の掘り起こしに取り 組み、物流拠点化を積極的に 進める。 港湾施設の整備につ いては、老朽化した港湾施設の 安全性確保を図るほか、引き続 き、物流拠点化の進展を図る ため、選択と集中を進めつ つ、港湾機能の維持・強化を 行う。 北九州港港湾計画について は、令和5年度での改訂を目 指し、改訂計画の案を策定 し、国や関係者と協議を行 う。
						実績 21,819 †	72.7 %	達成率												
VII-3-(2)-③ 九州地 域の空 港の連 携	30	⑧ ⑩	【施策評価の み】 九州地域の空 港の連携	空港 企画 課	【施策の内容】 北九州空港の集 客力と来訪者の回 遊性を向上させる ため、九州地域の 各空港との連携強 化を図る。	北九州港海上出入 貨物取扱量	9,998万 † (H23年)	目標 前年 (8,845万†) 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万† (R6年)	継続	123,088	107,505	減額	50,500	順調	官民一体となったポート セールス活動等を通じて、航 路誘致や集貨・創貨の推進に よる北九州港の利用促進を継 続するとともに、モーダルシ フトを推進する。	やや 遅れ	アフターコロナを見据え、 引き続き近隣の他空港と連携 して、北九州空港の利用促進 活動を行っていく。
						実績 9,636 万 †	108.9 %	達成率												